議　事　録　【令和２年度　第１回総合教育会議】

日	令和２年10月16日(金)	時間	13:30～15:13	場所	糸魚川市役所 201･202 会議室
件名	⑴　ICT の授業への活用について ⑵　教職員の ICT 活用スキルの格差是正について ⑶　電子メディアの関わり等の実態とモラル教育について				
出席者	【出席者】　15 人 市長　米田　徹 教育委員会　井川賢一（教育長）　永野雅美（教育長職務代理者） 霾本修一（教育委員）　谷口一之（教育委員）　塚田京子（教育委員） （事務局） 総務部　渡辺　忍（総務課長）　仲谷充史（総務課長補佐） 教育委員会　磯野　茂（教育次長）　磯野　豊（こども課長） 室橋淳次（こども課長補佐）　古平真由美（こども課親子健康健康係長） 冨永浩文（こども教育課長）　小野　聡（こども教育課参事） 水澤　哲（こども教育課こども教育係長） 川原隆行（こども教育課庶務係長） 穂苅　真（生涯学習課長）　伊藤章一郎（文化振興課長）				
	傍聴者定員	10 人	傍聴者数	３人	

会議要旨

１　開会（13:30）

○事務局

ただいまから、令和２年度第１回糸魚川市総合教育会議を開会する。

はじめに、市長がご挨拶申し上げる。

２　市長挨拶

本日はご多用のところ、令和２年度第１回糸魚川市総合教育会議にご出席いただき、厚くお礼申し上げる。教育委員の皆様方には、平素から市政、特に教育行政の推進に格別なるご理解、ご協力を賜わり、重ねてお礼申し上げる。

本日の会議は、「ICT の授業への活用」など３点を議事としている。

昨年 12 月に文部科学省から発表されたギガスクール構想では、１人１台の端末と高速大容量の通信ネットワークを一体的に整備することにより、多様な子供たちを誰一人取り残すことなく、公正に個別最適化され、資質・能力が一層確実に育成できる教育ＩＣＴ環境を実現することが必要であると掲げられている。

当市においてもギガスクールを実践するため、今年度において、小・中学生に１人１台の端末を整備することとしている。ただ、端末を整備することが目的ではなく、端末を活用した学びの転換、深化こそが重要であると考えている。

この後の議事においては、これらによる新たな問題も生じることが予想されるため、市のギガスクールの全体構想、教職員のスキル格差の是正、電子メディアとの関わり方を議論していただく。限られた時間ではあるが、教育委員の皆様方からご意見、ご提言を賜りますようお願い申し上げる。

3　議事

⑴　ICT の授業への活用について

タブレット・資料により説明

（質疑・応答）

○委員

教室内は自由に使えると思うが、校舎内やグラウンドなど、どの範囲まで使用可能か。

○事務局

インターネットがつながる Wi-Fi 環境は、教室、特別教室、体育館の想定である。廊下は教室内の電波が拾えるので、校舎内であれば使用可能である。ネットにつながらなくても出来ることはたくさんある。２年生が畑に行って成長記録を毎日同じ場所から写真に撮り、それをスライドに貼り付け、成長記録をパラパラ漫画として作るということも出来る。基本的にはネット機能以外は、どこでも使える。

○委員

校外学習などにも使えるということか。

○事務局

そのとおりである。子供たちに渡すタブレットについては、１メートル 20 センチの高さから落としても大丈夫なようにカバーされており、キーボードも付いている。したがって、机の高さから落としても何も問題がない。

○委員

壊れた場合のために保険に入っているのか。

○事務局

保険には入っていない。１年間の無料保証はある。仮に壊れた場合は、予備機での対応を予定している。

○委員

学校に登校したときに渡して、帰るときに回収となるのか。必要な時に渡して、その都度回収となるのか。

○事務局

各教室に保管庫を準備し、その中で保管する。１回の充電で 10 時間使用可能であるので、登校してから帰るまでずっと使用していても大丈夫である。

○市長

タブレットは、番号が付いていて、個人で占有して使用するものなのか。

○事務局

基本的には、１人が同じタブレットを卒業まで使用するものと考えている。

○委員

登校から帰宅までずっと使用できるというのは、自由すぎて少し不安が残る。使用に関するルール等は考えられているのか。

また、アプリを使用するにしても、先生の得手不得手によって偏りが出ないように、各校で同じアプリを導入し、取り扱えるように進めていかなければならないと考えるが、いかがか。

○事務局

市全体で管理と使用に関するガイドマップを、各校からの先生で推進チームを作って現

場の声を聴いて作成していく。またそのチームが情報共有の場となり、各校で偏りがない取組ができるようにしたいと考えている。

○教育長

１人１台タブレットを配布するとなると、１日中タブレットを使用して授業をすると捉える人もいると思うが、そうでない部分もあると思うので、その辺を説明してもらいたい。

○事務局

学習ツールの特性を生かして、必要な時に必要なものを使うという考え方である。

ノートや教科書を使って一生懸命書き込む時間もある。

そして、必要な時にさっと出して使用できる状況にしたい。したがって、学校の先生がしっかりと管理をする中で、子供たちが休み時間にいつでも自由に使えるということはしない。授業中のみの使用ということで考えている。

○委員

国のギガスクール構想の中に、現在使っているデジタル教科書がもっと質の高い、レベルの高い教科書が、どの教科でも一気に普及するのではないかと思う。そうすると１人１台のタブレットとデジタル教科書等の関連が密接に繋がってくる。

１人１台のタブレットはいいが、デジタル教科書を今後どのように整理していくのかが構想の中になければ、デジタル教科書の普及がなかなか進まないのではないか。

今後の見通しも含めて、構想があれば伺いたい。

○事務局

いま各学校に導入している一部のデジタル教科書は、教師指導用のデジタル教科書で、教師用のパソコンにインストールして、それを大型モニターで映し出し、その画面を子供たちが見ているというものである。

今後、普及発展していくデジタル教科書は、生徒児童用の紙の教科書と同じように一人一人に配布される。

そして、今までは紙の教科書の時間よりも、半分以上超えてはいけないという話もあったが、それが撤廃されたという話も聞いているので、進んでいくと思っている。

実際にタブレットを使いながら、まず慣れることを一番に考えており、そこでタブレットを使いこなした中で、子供のデジタル教科書も必要に応じて、導入していきたい。

また、紙の教科書にデジタル教科書を移してしまうと、本当に必要な他の情報も移せない状態が生じるので、そういう時はやはり紙の教科書も併せて使用するということを考えている。先生がタブレットに何を移すかというのが、教師の教材を選定する際の力量の一つに新しくなってくると考えている。

○委員

学校で使うことを基本として考えていると思うが、家への持ち出しについて、どのように考えているのか。

○事務局

現在、家庭への持ち帰りは考えていない。今後、特別な状況が生まれてくれば、環境をみながら考えることにはなるが、基本的には学校での学習用の使用と考えている。

○委員

総合型のオンライン授業の教室での展開、学校での展開が主に説明であったが、オンライ授業にオンデマンド型授業といって、資料・音声・動画などを提示して、その反応の中で学

びを進めていくという自学自習型の活用もあると思う。

今ほど話があった家庭とか、病気になって学校に行けないとか、不登校とか、理由があって学校で学べない状況でも、タブレットを活用すれば非常に効果があると考えられる。

環境整備の中にその辺も視野に入れているのか伺う。

○事務局

一律の取扱いとしては、学校の中での使用を想定している。

今現在も市内で、家にいる間に少し連絡を取り合うということで、ズームを使っての取組をしている学校もある。また、文化祭や合唱祭等を保護者はオンラインで見てください、また別会場で視聴して、自分の子供の学年発表の時に会場に来てくださいという工夫をしている学校がどんどん増えている。

したがって、できるだけ子供の学びに沿う形で、学校長と個々に相談しながら進めていきたいと考えている。

○委員

是非、利活用の幅を少しずつ広げていくことによって、安心して学べる機会が保障される体制を作ってもらいたいと思っている。

○市長

委員も言ったように、今の授業ではなかなか馴染めない児童や生徒は、タブレットであれば学べる環境にあるという形もあると思うので、これから進めていく中で幅の広いものになっていけばいいなと思っている。

⑵　教職員の ICT 活用スキルの格差是正について

資料により説明

（質疑・応答）

○委員

ギガスクールのロードマップについては、今年度の後半から来年度に向けての構想を聴き、見通しをしっかり持ちながら進めていく構えは、非常によくわかった。

何点か質問するが、最初に糸魚川市におけるスクール構想の説明という文言があるが、どういう方々を対象にした説明なのか。学校関係者だけなのか、それとも保護者も入るのか。教育機関、教育諸団体もあるが、そういう方々への説明も含まれるのかどうかが一点。

また、導入初期のときに ICT 支援員の増加ということで２名から４名になっているが、これは中学校区単位という意味合いで、中学校を核とした形での配置になるのか。

それから（4）番のその他のところに、情報教育推進チーム等の設立と記載されているが、糸魚川市の場合は一貫教育をしているので、高等学校もメンバーの中にぜひ入れてもらいたいという要望と、特別支援学校の関係の方々にも入ってもらいたい。特別支援学校の教育現場でも使える子供はどんどん使ってもらい、教育の効果を上げていってもらいたいので、ぜひお願いしたいと思っているが、その辺のチーム編成をどのように考えているのか。

できればそういった情報教育推進チームの中に優れた企業等で、こういったものについては長けているスペシャリストがいるのであれば、産業界からも入ってもらい、いろいろなアドバイスをもらうことも有効と考えるので、こういった場面での産学官連携、或いは大学の先生との連携・ネットワークも当然必要だと思うがいかがか。

○事務局

ギガスクール構想については、教職員を対象に説明をしたいと考えている。

ICT 支援員については、中学校単位ではなく、全体で 4 人ということで、支援しやすいところからチーム分けをしながら進めていきたいと考えている。

情報教育推進チームについては、当然特別支援学校、生徒も含めて検討しており、今後高校や産業界との連携も検討していきたい。

○委員

保護者への説明は、どのような形で行われるのか。

○事務局

現段階では、私たちが学校職員に説明をし、学校が自校での活用の様子について、保護者に説明するということを想定している。

○委員

初めて始まることなので、保護者も疑問を持ったまま始めることがないように、説明を丁寧にしてもらいたい。

○事務局

当然学校経由での詳しい主要説明や構想説明はさせていただく予定であり、いろいろな形での市民周知も検討していく。

例えば、広報、ホームページ、任意の説明会の開催などを検討しながら、誤解のないように、理解いただけるように、こちらとしても検討していきたい。

○委員

関連するが、学校現場で保護者への説明を計画的にしっかりやっていきたい考えはわかるが、説明の時期が学校によってバラバラであったり、その説明の内容がバラバラであったりすると、そこから学校間格差が出てくるのではないかと危惧する。

やはり一斉にするのであれば、日にちを決め、例えば授業参観みたいな位置付けでやる。まず授業を見てもらい、そのあとに説明会というような形でもって保護者や地域の方々にぜひ来てくださいと、地域の皆さんにもオープンにしていいのではないかと思う。

地域みんなで今、子供たちをサポートしているので、そのような授業参観をする中で、使っている現場を見てもらって、その活用がどんなふうに効果を上げていくのか、また応援をもらいたいという意味で一斉にオープンにしたらどうか。

その辺の仕掛けがはっきりしないと、ある学校では行った、ある学校ではまだだという時間的な相違が出てくると思うので、そのようなことがないように、ぜひ計画的にやってもらいたい。

○市長

私も同じように感じている。

ギガスクールという、今までと大きく変わっていく教育環境というのは市民も非常に関心が高いと思っている。

当面は、学校現場に先に入っていくことが大切であると思っているが、市民を対象とした説明会や公開授業などをして、皆さんから見ていただくと良いのではないかと思っているので、それも視野に入れながら計画的に進めてもらいたい。

○委員

同じ意見である。

導入前の話し合いがやはり一番大事だと思っているので、いろいろな意見を聞きながら取り組んでもらいたいと思う。

良いところばかりを見るのではなく、害が出ることもあると思うので、導入した後の害について導入前の段階から検討してもらいたい。

○事務局

ギガスクールでのタブレットの導入については、当然リスクが伴うと考えている。

リスクについては、十分保護者にも周知を図りながら、回避するためにどのような手段を講じればいいのかを、事務局でも十分検討しながら、またそれを保護者にも説明していくというような対策をとっていきたい。

○委員

説明の仕方如何だと思うが、学校にタブレットを配置する。能率よく、活用能力を高めるためは、家にも子供１人に１台を買いなさいということかと、短絡的に捉えられると非常に困る部分がある。

しかし、経済的に買える家は、いち早く子供に持たせるという家庭も出てくるのではないかと考える。

そうすると習熟度が子供により全然違ってくる状況になり、学級の中でも得意な子供と非常に不得意な子供が出てしまい、かえって悪影響を与えるのではないかと心配する保護者も出てくるのではと思う。経済的な理由、家庭的な事情も出てくる。

そのような誤解を生まないように、段階を追ってゆっくり進みましょうというような説明をすることにより、受け取る保護者の気持ちが随分違ってくると思う。

その辺を慎重にゆっくりスタートしましょうということをやっていかないと、一気に変わることで、後になってまたいろいろな問題が出てくるのは困るので、その切り換えの時期をとにかく大事に、丁寧に進めてもらいたい。

○教育長

保護者への説明は丁寧にするということであるが、その一方で授業が大きく変わることになると思う。そういった中で来年の８月ぐらいまでが導入期ということであることが、その間に、先生のスキルをしっかり上げてもらいたいし、できれば、もう少し早く皆さんが同じレベルになるような取組を進めていってもらいたいと考えている。

保護者の部分と教員の部分は違うが、それぞれしっかりとこちらでも対応していきたいと思う。

○委員

関連するが、現状でも進んで授業をしている先生もいれば、そうでない先生もいないことはない。

私も苦手だったが、学校が変わるということで、これからはやっていかなければならない部分が多いと思うが、ただ、事務局の話の中にあったように、やっぱりノート使ったり、みんなで話し合ったりする授業も本当に大切だと思うし、それでしか学べないこともいっぱいあると思う。

そういう授業はやっぱり大事にしてもらいたいし、計画の中にあるが、この授業ではこういうところで使おうとか、この学年ではこういうところが有効だというある程度のラインが出てくると思う。全部の教科で使えるかどうかは分からないが、ぜひ効果的に使ってもらいたい。さっき出てきたように、写真を撮って、取り込んで、簡単に個人の記録が見ることが

できれば非常に有効であると思うので、そういった良さをぜひ生かしてもらいたい。

ただ、やはり教室での授業も大事なので、その部分は残して、充実してもらいたい。

また、先生の負担を軽くするように、学校の中で講師を招いて研修する機会等を設けたり、チームとして応援したりするような取組を充実してもらいたい。負担感だけ感じる教員になってほしくないので、その点を要望する。

⑶　電子メディアの関わり等の実態とモラル教育について

資料により説明

（質疑・応答）

○委員

携帯電話、スマートフォンの所持率を見て、大変驚いた。これで１人１台タブレットを持つことになると、先ほど委員が言ったように、家でも持たせたほうがいいのではないかと思う親が増え、これ以上になると想像できる。インターネットなどは、物事を調べるには、本当に優秀なツールだと思うし、本当にいいこともたくさんあると思う。

年齢や成長の発達に応じた見せ方を、それぞれ親がちゃんと理解して、ネットメディアと向き合わせるような形をとれるようにすることが大切である。

しかし、その場合に家庭でのルールづくりと言うが、まず親のほうが出来ていないのではないかと思うので、親が、今一度、自分自身の使い方を考え、見直す機会を与えてもらいたい。

また、子供たちが小さい頃から使う機会が増えると思うが、もし可能ならマタニティスクールなどで、子供たちが生まれたときに、早くからメディアに触れさせるとこういう悪影響があり、親と直接触れ合うことで、子供たちがよりよく育つということを、やはりもっと強調して、伝えていってもらいたい。

○教育長

関連して、これまで電子メディアの取り扱いが、家庭任せというのは、委員がおっしゃる通りだと思う。

ルールを設けている家庭も半分程度ということであるが、実際にはルールがあっても、その通り守っているかどうかというと、そこまではなかなか管理は出来ていないと思う。

今回、１人１台のタブレットが入るわけだが、家庭任せではなくて、やはり学校側からも指導する場面が出てくると思っている。

それで、この機会に逆にチャンスと捉えて、子供や保護者も含めて、もう一度電子メディアの扱いについて考える、そういった機会にしたほうがいいのではないかと思うので、今の時点での考えでもいいので、その辺りの計画について伺いたい。

○事務局

委員がお話しされたことと同じことが、糸魚川市親子保健計画を推進する会でも出ている。確かにもうメディアを持たせないということはちょっと無理なので、適切に使うことを指導していかなければならない。

さらに、保護者にも適切な使い方をお話ししていく。子供が小さいうちに、マタニティスクールなどの時点から、その話をしていく必要があると考えている。

また、ルールを決めて、家庭でそれを守っていくことが必要なので、親が見本を見せる必

要がある。メディアコントロールは、家庭が重要なので、家庭できちんとできるように、保護者への学習の機会を作っていかなければならないという話をしている。

○事務局

一貫教育を進める上では、それぞれの資質能力を育む中で、メディの利用やメディアとの関わりが大変重要な項目として、中に謳われているし、市教委としても、こども課やこども教育課と連携しながら、0 歳から 18 歳までの子供たちのモラル教育を行っていく、或いは保護者を含めたメディアとの関わり方について指導支援していくことは、当然のことだと思っており、やっていきたいと考えている。

ただ、やはり保護者、子供と一番繋がりがあるのは学校・園になるので、1 人 1 台の端末の導入を機に、端末を使いながらモラル教育を行い、子供たちが主体的、自立的にモラルを守っていくんだと、自分たちが賢い使用者になるんだということを伝えたり、育んだりしていきたいし、そのプログラムをこちらでも提案したいと、学校を支援していきたい。

また、大事なのは、例えば小学校レベルでは、保護者、子供と一緒になってメディア利用のルールを作り、一緒になって守っていくということが大切であり、保護者を啓発するＰＴＡと一緒になってルールを作る取組もやっていきたい。

中学校では、今度は生徒や生徒会が主体となってやり、そこを上手くＰＴＡが支援していくという中学校ならではの取組もあるので、それぞれ校種により支援の仕方を変えながら、賢いメディア利用というものが定着するよう取り組んでいきたい。

○委員

今、事務局が一貫教育の立場から小・中学の取組について、発達段階に応じて取り組んでいるという力強い話しであったが、やはり、乳幼児期からのスタート、妊娠期からという話も出ているが、若い親ほど持たせたがる、許容するパーセントが非常に高い。驚くべきことだと思うが、要するに、若い世代ほど全然危機意識を持っていないとも捉えられるのではないかと思う。

そのときに、啓発・説明を含めて何かの運動的なうねりを作っていく。それには幼稚園・保育園、その保護者の意識改革が必要であると考える。

それからすると、やはり現場の幼稚園・保育園の取組の中に、思い切った働きかけみたいなものを、きめ細かくやっていかないと、これがまたより一層ダラダラしていくのではないかという危機意識を持つが、そこら辺り、事務局はどのように考えているのか。

○事務局

今、こども課の保健師も園に入って、健康教室で保護者に対してメディアとの関わり方をアナウンスしている。

ただ、そういう取組をしていながらこういったアンケート結果が出てくるということは、やはり方法を変えていかなければならないと思っている。

事務局も申し上げたが、このアンケート結果をもとに、親子いきいき会と通称言っているが、様々な子育ての関係者から集まっていただき対策を練っている。その親子いきいき会では、委員は自分事として捉えて積極的な意見をいただいている。皆さんが自分事として捉えてくれるような、そういった自発的に取り組んでくれるような雰囲気にしていかなければいけないと考えており、具体的な取組をどのようにするのか話し合っていきたい。

○委員

糸魚川市はこども一貫教育に絡めて、生活リズム改善運動を 10 数年前からやり、かなり

運動的なうねりがでた実績がある。それはモンスター攻略ブックを作って、小学校の低学年から高学年までの一定の期間だけでも行ったあの施策は、非常にインパクトがあって、親も子も努力しながら、生活リズムの改善に向けての努力が浸透したと思う。ただ、ちょっとずつマンネリ化してきた部分もあるが、あの時の意識は、睡眠の大切さ、朝ご飯の大切を基本的な生活の大事要素として、学習を兼ねて、そして日々の見直しも含めて、親子で取り組んだという実績がある。

そのノウハウを生かし、メディア接触をそのような切り換えで何かできないかと思う。各園や小・中学校でやっているが、市民、市民全体的な運動のうねりを作らない限りは、なかなかうまくいかないのではないかと私は思う。

ぜひ検討する委員の皆さんも含めて、みんなで運動するというような形、生活リズム改善運動、早寝早起き、おいしい朝ごはんが、みんなの口癖のように言っていたあの運動が非常に印象残っている。

ぜひキャッチフレーズなどを作って、メディア接触との関わり方を築き、見直して、そして改善していくという動きを作ってもらうとありがたいと思う。

その切り換え時期がちょうどこの時期ではないかと思うが、いかがか。

○市長

私からも提案するが、まさしく今、委員のおっしゃったとおり、市民に対してもギガスクールのスタートという形で説明会をやるということで進めてもらいたいという要望があったように、ちょうど新たな機会であり、アンケート見ても危険性をかなり含んでいる状況であるので、やはりその辺をしっかりと打ち出していければいいと思う。

早寝早起き、おいしい朝ごはんは、非常に基本的なところなので、それと併せながら出していく。そして、今は教育現場や保護者の皆様方には、我が家ルールというような形でのルール作りと言っているが、どうもソフトに聞こえる部分があるので、新たな規則づくりというような形で、少しきつく感じるような形で、新たな展開をしていけばいいのではないかと思っている。

そして、やはりそのルールや規則を守らないのは、悪いことだというような環境を作っていくことが、若い保護者の皆様方にもしっかりと受けとめてもらえるのではないか。そのようなことをしてかないと、ややもするとやはりソフト的な言葉の方を選んでしまい、守っても守らなくてもいいのではないかという、子供に対して甘くなる恐れがあると思う。

また、自分の子供にはあんまり強くできないとしたら、周りが見ている環境、地域で指導できるような環境づくりも大事だと思う。

せっかくこのような事柄が起きたときに、それをきっかけにしてやらないと、何もない時にやっても何も効果がないと思うので、ぜひともこの機会にギガスクールの導入の時に、しっかりと、こういう弊害があってこういうことが起きるということを再認識できるような情報、他の資料があると思うので、そういうものを使いながらやっていただきたい。

○事務局

私が前の学校で実践をしたときに一番抵抗があったのは、やはり保護者の声として、うちがやっても、周りがやってないので駄目だったというような声があった。結局、人がやっていることだけれども、毅然としてルールを子供たちに言えない。

言葉がやわらかいとか、厳しいとかということではなく、毅然として保護者が駄目と言える状況を作りたい。

そのためには、ＰＴＡ全体として、厳しいけれども、横並びで一緒にやっていく、きちんとしたルールを作る動きを、みんながこれはルールなんだからもう駄目なんだよと言える、誰がなんて言おうとこれは駄目なんだと毅然として言えるようなものを作りたい。

市長が今おっしゃったようなことが、さらに中学校区に広がり市全体に広がり、そういった形で大人がうちの市はもう毅然として、これは駄目なんだと言えるような、そういったルールづくりができるように、理想として検討していきたい。

○教育長

電子メディアの規制や早寝早起き、おいしい朝ごはんを、何のためにやるのかということだと思う。

そこの部分をもう少し明確に、子供たちのために打ち出していきたいと思う。

○市長

皆さん知っておられると思うけれども、やはり日々の生活の中でなかなか守れない状況があるとしたら、令和３年はギガスクール元年みたいな形で、もうそこら中にのぼり旗を立てるぐらいにして、ルールを守ろうというぐらいの、早寝早起き、おいしい朝ごはんも併せて、やっていけるような環境の方がいいのかもしれない。守らないのは罪なんだよっていう気持ちでやっていただけるようにすればいいのではないか。

○委員

実際に学校では、ネットを使ったいじめとかトラブルはもう既に発生しているし、違う世代になると、他と繋がっているので、全国的に小・中学生の誘拐などの事件、事故が起きているので、絶対そういう子が出ないようにしなければならない。そういう被害に遭う子がいては困るが、そうなる恐れは十分にあるので、ネットを使ったいじめとかトラブルとか、他と繋がって、今甘い言葉で誘うのが本当に山ほどあるので、モラルをぜひ子供たちには身に付けてもらいたいし、当然それは大人になっても大事なことなので、ネットを使うと普段言えないことが何でもいえるとか、書けるとかという時代になってきているので、そういうモラルとか、良くないことは絶対駄目なんだということを、やはり小さい頃から全体で取り組んでいかなければならないことだと思う。

○委員

皆さんの意見そのものずばりで、委員がおっしゃられた私も親だと思っているところが強くて、教育長もおっしゃったとおり誰のためというのは、わが子のためにいろいろ心配して動いて、周りの人たちも関わってくださっている。

そして聞いて分かっている親は、いろいろな情報を仕入れて、全て理解した上で進んでいるけれども、結局聞いて欲しい親に聞いてもらえていないということで、最後はそこに行き着くと思う。

そこのところを、どのように改善していくのかを考えて、逆にタブレットを渡す前に、この講演とこの講演とこの講演は親子で行きましょうと。聞いた人には渡しますとか、結構強く出るというか、それによって聞かないよりはいいということになる。それを聞いた上で、考える親は情報を得た上で動くということもあるかもしれないので、いろいろな違う形の動きを考えてもいいのではないかと思う。

○委員

私もインターネットの事件が多いことをとても心配していて、親が子供たちにそういったツールを持たせるとしたら、どんなことをしているか、何に使っているかを子供に渡しっ

放しではなくて、親もきちんと管理することがとても大事だと思う。

今情報が溢れている時代で、特にインターネットにはいろいろな情報があるので、とても便利ではあるが、時には間違った情報も入っているので、そこを見極める力を親も子供も持つように、そういった力をつけることが大切だと思う。

保護者の方には、ヒヤリハットではないけれども、持たせることですごくリスクがあることを伝えていって欲しい。

○市長

確かに今情報が溢れている時代、今の新型コロナウイルスの感染症についても同じことだが、非常に憶測で物事が動いていく、広がっていくという状況の中においては、ネット環境の中ではあるのだろうと思っており、その辺を社会全体でやってかなきゃ駄目だと思っている。

行政と市全体の中でどうしていけばいいのかということも、来年度あたり一緒になって広げていったり、注意喚起をしていったりしていかなくてはならないので、その辺も捉えていきたいと思っている。

タブレットは非常に便利に使えるが、いろいろ悪用される恐れもあるので心配ではあるが、使えないという環境では子供たちが困るので、今の時代に対応できる子供たちになってもらいたい。

そういったところをしっかり教育委員会で監視したり、また家庭でも監視したりしていけるような糸魚川版のルール、規則にすればいいのかは分からないが、そういったものを作りながら対応してもらいたい。

4　その他

○市長

ギガスクールの他地域の状況が分かれば、教えてもらいたい。

○事務局

私のわかる範囲でお答えする。上越市、妙高市は全てｉＰａｄを導入するということで進めている。導入時期も当市と同じである。

当市は、他市に比べて教職員への配布数が多く、先生方一人一人の授業で実際に使える環境を整えていることは、自負しているところである。

また、各学級への大型提示装置は、本当に現場で必要だという要望があるので、その要望にこたえられるように進めている。

柏崎市もｉＰａｄでの整備となっている。

近隣で職員が移動する機会が多い上越市、妙高市と３市で、ガイドラインや導入ソフトをどのようにしていくのかを、担当職員で定期的にオンライン会合を持っている。

今現在、先ほど事務局から示した推進チームやガイドラインを作るという辺りも協力していくということで進めており、お互いに連携している状況である。

5　閉会（15：13）